（5）甲　信　越

甲信越地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- **鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。**
- **個人消費は持ち直しの動きが続いている。**
- **雇用情勢は着実に改善している。**

（注）下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（＿は上方に変更、＿は下方に変更）。

前回調査からの主要変更点

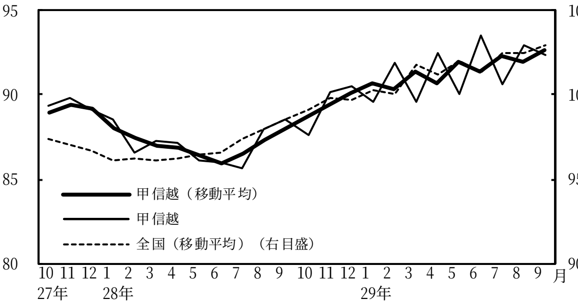
	前回（平成29年８月）	今回（平成29年11月）	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	↓

１．生産及び企業動向

（１）鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

７－９月期には、「電子デバ、電気・情報通信」は、おおむね横ばいとなった。「汎・生産・業務用機械」は、国内外の設備投資需要等を背景に増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、おおむね横ばいとなった。「輸送機械」は、減少した。

鉱工業生産指数



（備考）１．22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
２．全国及び甲信越の太線は中心３か月移動平均。
直近月は２か月平均。
３．甲信越は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期（月）比)　(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		４－６月期	７－９月期	７月	８月	９月
電子デバ、電気・情報通信	42.8	▲1.3	▲0.0	▲1.6	1.6	▲2.8
汎・生産・業務用機械	17.9	8.2	1.4	▲4.3	2.7	1.8
石油・石炭製品、化学、プラ製品	10.5	0.7	▲1.4	▲5.7	1.1	▲0.3
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.6	0.7	▲0.0	0.2	1.3	▲1.7
輸送機械	7.1	0.8	▲0.8	▲6.8	9.2	2.0
鉱工業	100.0	1.8	0.0	▲3.1	2.5	▲0.5

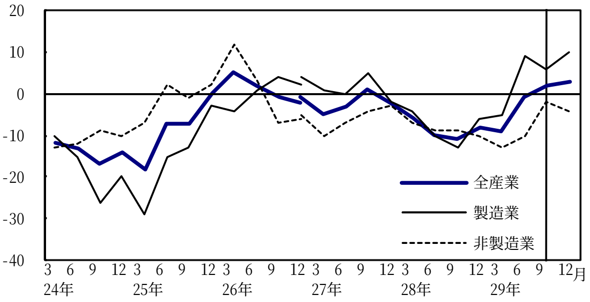
（備考）１．地域における付加価値ウェイトの高い５業種。
２．７－９月期、９月は速報値。

（２）新潟支店の企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
甲府支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
松本支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

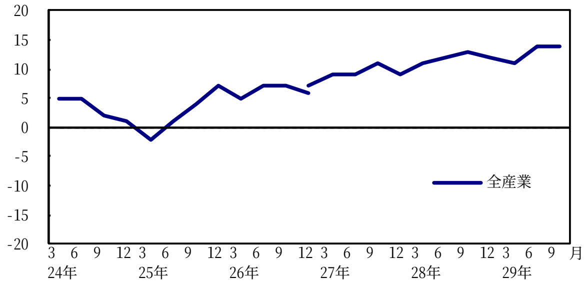
(5) 甲信越

①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

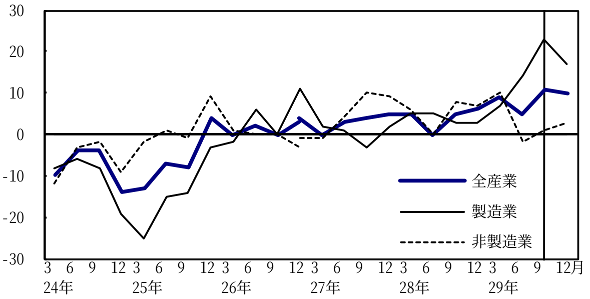
新潟支店 企業短期経済観測［業況判断］



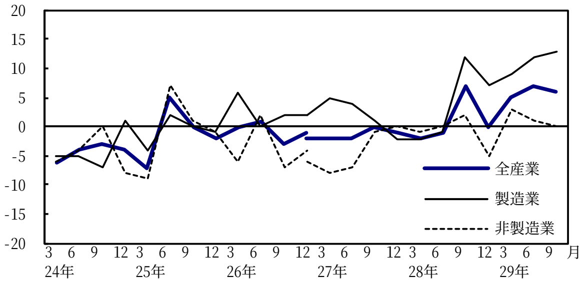
新潟支店 企業短期経済観測［資金繰り判断］



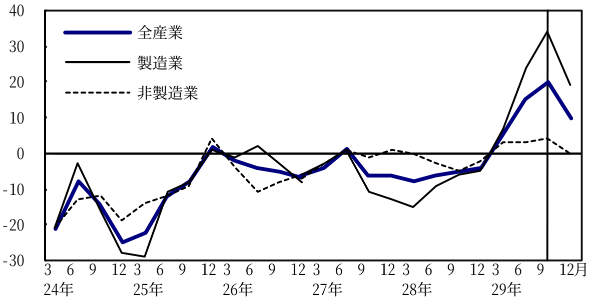
甲府支店 企業短期経済観測［業況判断］



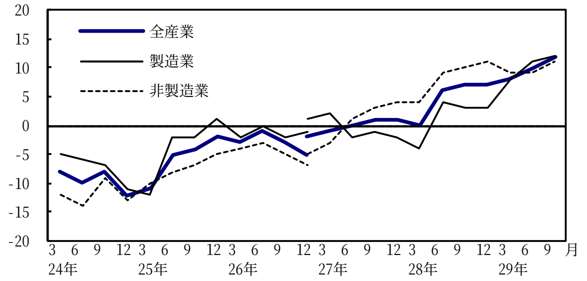
甲府支店 企業短期経済観測［資金繰り判断］



松本支店 企業短期経済観測［業況判断］



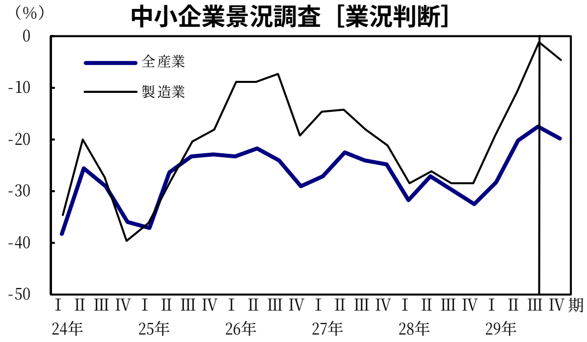
松本支店 企業短期経済観測［資金繰り判断］



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

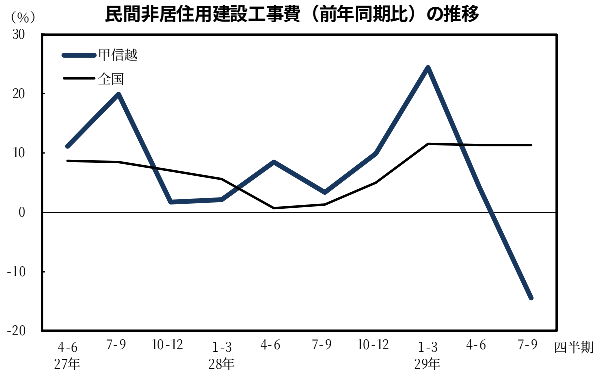
中小企業景況調査［業況判断］



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年Ⅳ期は見通し。

②景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「現在、受注量は順調に伸びている(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に減少している。



(備考) 29年4−6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全　産　業		
新潟支店	12.2	2.9 (▲0.4)
甲府支店	14.4	23.5 (0.4)
松本支店	5.2	6.7 (4.9)
製　造　業		
新潟支店	20.5	▲3.6 (▲2.9)
甲府支店	11.1	42.7 (0.3)
松本支店	2.1	9.2 (4.9)
非 製 造 業		
新潟支店	5.3	9.0 (1.7)
甲府支店	18.6	0.8 (0.6)
松本支店	21.3	▲4.5 (4.9)

(備考) ( )は前回(6月)調査比修正率。

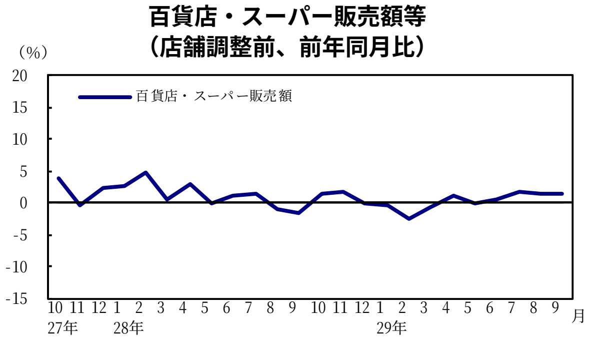
2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

①地域別消費総合指数(RDEI(消費))
7月は前月比1.1%増、8月は同0.2%増、9月は同1.1%減となった。

②百貨店・スーパー販売額
7月は、飲食料品やその他の商品が前年を上回ったため、前年を上回った。8、9月は、飲食料品が前年を上回ったため、前年を上回った。

③景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[家計動向関連(現状)]
「今月は長雨、台風など週末の天候が悪く、来客数に影響が出ている(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

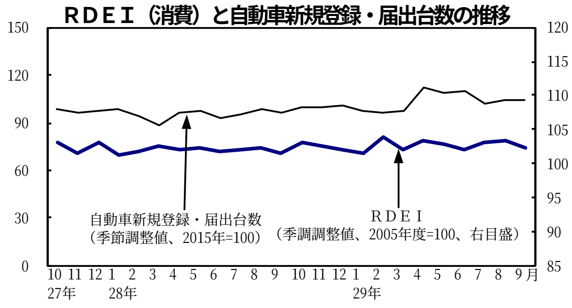


	29年7−9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	1.1	0.2	▲1.1
百貨店・スーパー(*2)	1.4	1.6	1.3	1.3
乗用車(*3)	6.6	6.6	6.0	7.0
(季節調整値) (*3)	▲6.3	▲7.0	1.7	0.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)
2. 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(5) 甲信越

ＲＤＥＩ（消費）と自動車新規登録・届出台数の推移

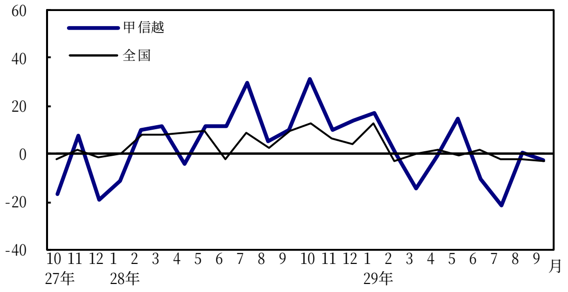


（２）住宅建設は前年に比べて減少している。

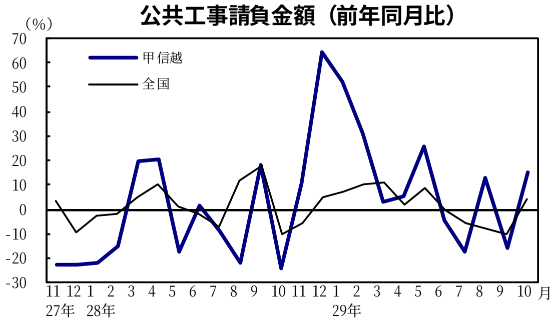
分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

（３）公共投資は29年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



公共工事請負金額（前年同月比）



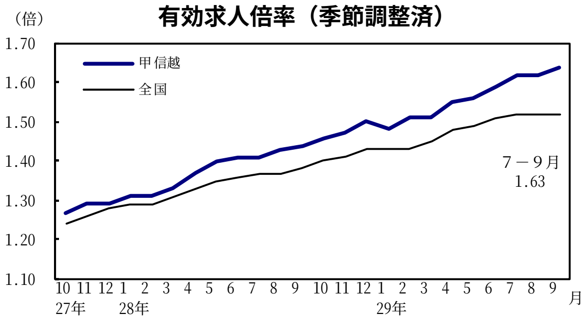
３．雇用情勢等

（１）雇用情勢は着実に改善している。

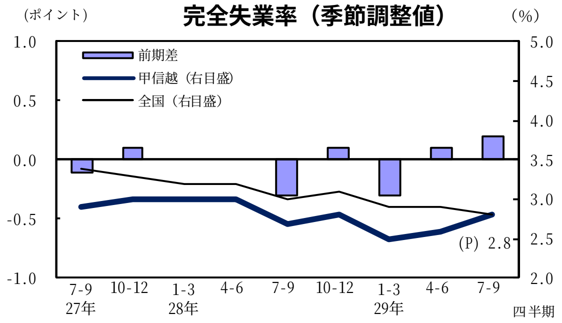
①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。

有効求人倍率（季節調整済）



完全失業率（季節調整値）



（備考）１．内閣府にて算出、季節調整。
２．７－９月期の値は暫定値。

②景気ウォッチャー調査（10月調査結果）［雇用関連（現状）］

「求人をけん引する製造業では、求人は増えてきているものの、正社員求人には変化がなく、採用基準の引下げも少なく、充足できない状況が続いている（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

（2）企業倒産は前年に比べて件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

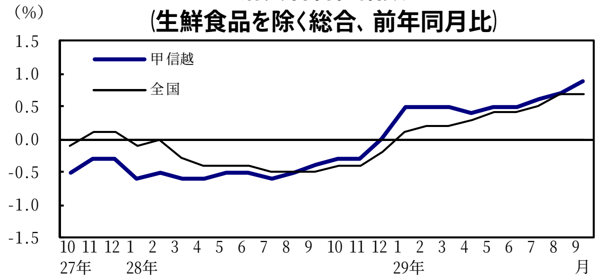
（3）消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

（件、億円、%）

	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	54	51	70	56	21
（前年比）	▲10.0	▲26.1	32.1	14.3	16.7
負債総額	88	153	206	63	17
（前年比）	▲56.0	▲4.1	135.4	▲81.5	▲55.3

消費者物価指数
（生鮮食品を除く総合、前年同月比）



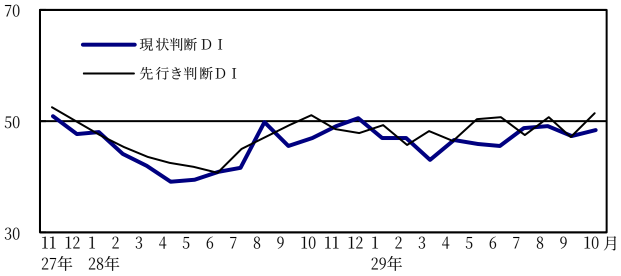
（備考）甲信越は内閣府にて算出。

○　**景気ウォッチャー調査（10月調査結果）［合計（特徴的な判断理由）］**

<現状>

・客の来店動向は変わらない。新規、フリー客が増えることはほとんどなく、固定客の実績で売上が左右されている。固定客の大口入金の有無で、前年比が大きく変わる場合があるのも事実である（百貨店）。

<先行き>

・今後はキャンペーンなどがあり、なんとか前年並みくらいまではいくのではないかという希望もある。この先も客の状況は変わらないため、キャンペーンで若干取り戻すという状況が続く（コンビニ）。

景気ウォッチャー調査（季節調整値）